

文京ふるさと歴史館

BUNKYO MUSEUM NEWS

だより



▲「丙午年本郷丸山大火の馬場越前屋鳥を放の図」(『晚齋画談』当館蔵より)

第22号 / 平成27年6月19日発行

災後社会を生きる人びと	2
博物館資料の中の“はかる”	4
明治の東京案内—手のひらに乗る本—	6
平成26年度のおゆみ	7
平成27年度の催し	8

災後社会を生きる人びと

“関東大震災”と文京

大正12年(1923)9月1日午前11時58分32秒。

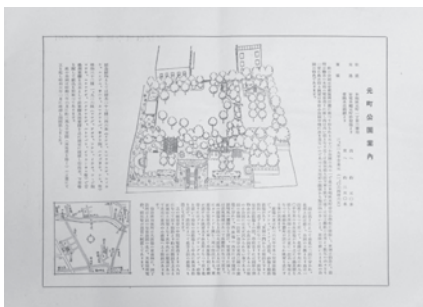
相模湾沖80km、北緯35.1度、東経139.5度で発生したマグニチュード7.9の地震が、南関東から静岡沿岸地域を直撃、東京府と神奈川県は甚大な被害を受けました。

壊滅的な被害を受けた東京を再興するよりも、首都機能に移転すべき、といった意見も政府内部に上がる中、震災後、程なく帝都復興院が設置され、復興に向けた計画策定が着手されました。その舵取り役として、山本権兵衛首相から内務大臣に指名されたのが、後藤新平です^{※1}。

後藤は、俗に言う“30兆円”計画を提言します。財政的負担が大きすぎるとして、議会承認が得られず、多くの事業計画が実施されずに終わったものの、非常事態下における後藤の計画と立案、実行力については、今日改めて評価されています。3つの大公園と、小学校に併設された52箇所の小公園は、災害発生時のみならず、まちづくりにおいて重要な都市空間となりました。



「元町公園案内 表」(当館蔵)

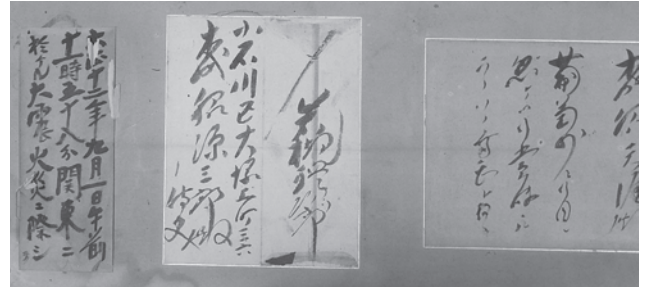


「元町公園案内 裏」(当館蔵)

復興計画の主導的役割を果たした後藤新平にとって、時に政敵、時に盟友であった人物が、平民宰相とも呼ばれた若槻禮次郎です^{※2}。

出雲国(現・島根県)松江藩の足輕階級出身の若槻は、上京後、第一高等学校(現・東京大学教養学部)から帝国大学法科大学(現・東京大学法学部)に進み、同校を主席で卒業して大蔵省に入省しました。官僚として、主税局長や大蔵次官を務めた後に政治家に転じ、第18代・20代大蔵大臣、第41代・42代内務大臣などを歴任、急死した加藤高明首相の後継として第25代総理大臣に、その後も体調不良で辞任した濱口雄幸の後任として第28代総理大臣に就任しました。最初の総理大臣在職時には、普通選挙法を施行しています。

若槻は、帝国大学在学中に菊坂町(現・本郷五丁目)に下宿し、後に、大和郷(現・本駒込六丁目)にも居住した、文京ゆかりの政治家です。文京区には、若槻が党首を務めた立憲政友会員で、小石川区在住の東京市議員・森脇源三郎にあてた書簡が遺されています。関東大震災直後の、国会議員と地方議員との関わりを考える上で貴重です。



若槻禮次郎書簡(文京区所蔵)

紀行文学者が見て・歩いて・記した被災地

『蒲団』や『田舎教師』などの小説で、自然主義文学の旗手とされている田山花袋ですが、実は、『東京近郊一日の行楽』ほか、58篇に上る紀行文を著しています。

また花袋は作家活動の傍ら、博文館の編集者として、『大日本地誌』編纂などに携わりました。花袋は博文館在籍当時の明治36年(1903)、小石川区小日向水道町92番地(現・小日向二丁目11番地)に居住していました。

代々木の自宅で関東大震災に遭遇した花袋は、被害の甚大だった本所近辺の罹災状況を詳細に実見し、『東京震災記』を著しました。現代に比べ、記録媒体の少なかった当時の貴重なルポルタージュです。

ただし、関東大震災直後の花袋のこの行動の背景は、実は、向島の愛妾・飯田代子の安否を気遣ってのものだったことも、同書の記載内容から広く知られています。言葉を換えれば自然主義文学界の第一人者としての面目躍如とも言えるでしょう。



『東京震災記』(当館蔵)

“戦争被害”と文京

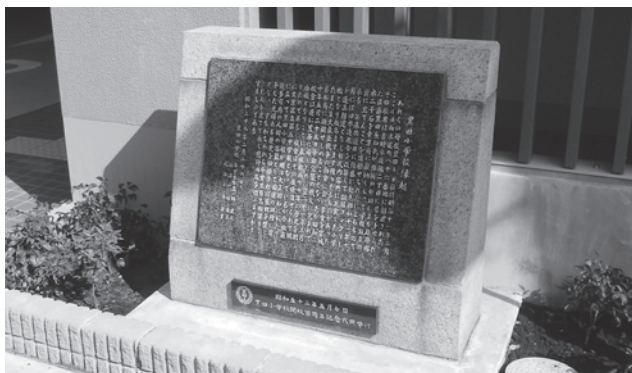
第二次世界大戦下、東京は幾度かの空襲により、甚大な被害を受けました。

文京区の前身であった本郷区と小石川区も、昭和20年(1945)1月27・28日、2月25日、3月10日、4月13～14日、そして5月24・25日の度重なる空襲によって、区域の大部分が焼失しています。

小石川区金富町45番地(現・春日二丁目)に生まれた永井壮吉、後の荷風は、黒田尋常小学校に学びました。多くの作品の中で、幼少期を過ごした小石川の地を懐かしんでいます。

空襲で自宅が焼失した荷風は、戦禍を避けて明石、岡山などを転々とするも、行く先々で被災し、何とか生き延びた時には齢66才を過ぎ、身も心も憔悴し切っていたのです。

そんな荷風が、片時も離さずに綴り続けたのが、『断腸亭日乗』です。近年、耽美派の作家として以上に、“都市観察者”としての評価が高まっている永井荷風^{※3}。戦時下の荷風が日々の暮らしで遺した心情が慮られます。



黒田小学校記念碑

“災後”社会に生きる

平成 23 年 (2011) 3 月 11 日午後 2 時 46 分。三陸沖を震源とするマグニチュード 9.0 の直下型地震が発生。

この地震では、直後に発生した津波の遡上高が最大 20 m に達し、岩手、宮城、福島の前北三県の沿岸部から内陸 6km に及びました。そして東北地方から関東地方の広範囲に甚大な災害をもたらしました。

原子力発電所のメルトダウン事故という未曾有の災害で、発生から 4 年が過ぎた現在も、数多くの被災者が厳しい暮らしを余儀なくされています。“災後”社会の対策は喫緊の課題となっています。

震災や戦災という“災後”社会を生き抜いた文京ゆかりの文人の一人が坂口安吾です。

安吾は、新潟市に生まれ、上京後、豊山中学 (現・日本大学豊山中学校・高等学校) や東洋大学に学びました。自著によれば、豊山中学時代は授業に出ずに、校舎裏手の護国寺境内で、青空の下、読書に耽る日々を送っていたといひます。職業作家となってからは、数多の文士達が宿泊した本郷菊富士ホテルの常宿者としても知られています^{※4}。

無頼派の一人とされる安吾ですが、戦後間もない昭和 21 年に発表した『墮落論』により圧倒的な存在感で世に容れられました。敗戦の衝撃からの復旧、復興期に安吾はこう訴えたのです。「墜ちよ、生きよ」と。

『日本文化私観』や『不良少年とキリスト』などなど、“あちらこちら命ガケ”で災後社会を生きた安吾の作品群は、不朽の作品として読み継がれています。



本郷菊富士ホテル跡記念碑

戦争が終わってボくらは生まれた

今年には第二次世界大戦終結から 70 年。戦争体験者の方々の高齢化、記憶と記録の風化が懸念されています。

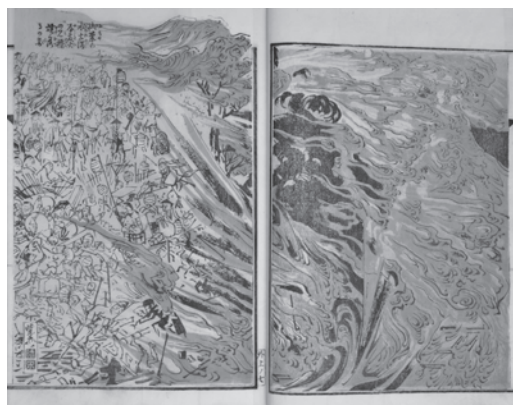
当館では、平成 7 年度に学童疎開^{※5}、同 14 年度には関東

大震災に関わる企画展示を開催しました^{※6}。

片や自然災害、片や人間同士の争いの結果としての戦争。双方には、とても大きな質の違いがありますが、人々の日常生活に非常事態をもたらすという点では、歴史上、同等の意義を持っていると言えるでしょう。

今や戦争を知らずに育った世代が、国民の大多数を占めています。私たちが、歴史に残る記録、心に遺る記憶に学ぶべき教訓は枚挙に暇がありません。将来に亘って持続可能な社会を築いてゆくため、そして、復興を待ち望む人々のために、歴史の教訓を活かしてゆかなければなりません。

帝国大学理科大学 (現・東京大学理学部) 卒業後、同校の教授となった寺田寅彦は、第五高等学校 (現・熊本大学教養学部) で夏目漱石に師事、漱石を介して正岡子規とも親交を深めました。“天災は忘れた頃にやってくる”という警句は、随筆家としても活動した寺田が、震災予防調査会 (後に東京大学地震研究所に継承) の一員として、関東大震災その他の災害の、被災状況を調査した経験に基づく言葉であるとして伝えられています^{※7}。



安政大地震の様子 (『暁斎画談』当館蔵より)

今年度の特別展では、関東大震災と、第二次世界大戦に関わる館蔵資料を中心に紹介します。

また、文京区ゆかりの人々が、未曾有の災害に直面した時、何を考え、どのように行動したかをご紹介します。

特別展、『復興への想い—生きよ—(仮)』にご期待下さい(会期: 10 月 31 日~12 月 13 日)。

(加藤元信)

- ※1 御厨 貴編 2004 『時代の先覚者・後藤新平 1857~1929』藤原書店
" 2007 『後藤新平大全』藤原書店
藤原書店編集部編 2007 『後藤新平の「仕事」』藤原書店
- ※2 青木 得三 1986 『日本宰相列伝 11 若槻礼次郎・浜口雄幸』時事通信社
豊田 稔 1990 『宰相・若槻礼次郎 ロンドン軍縮会議首席全権』講談社
御厨貴監修 2006 『歴代総理大臣伝記叢書 第 16 巻 若槻礼次郎』ゆまに書房
若槻禮次郎 1983 『明治・大正・昭和政界秘史—古風庵回顧録—』講談社学術文庫
- ※3 川本 三郎 1996 『荷風と東京』都市出版
" 2000 『荷風語録』岩波現代文庫
- ※4 近藤 富枝 1974 『本郷菊富士ホテル 文壇資料』講談社
- ※5 文京ふるさと歴史館編 1996 『文京の学童疎開と空襲』
- ※6 文京ふるさと歴史館編 2003 『移りゆくまちの風景—関東大震災後の文京—』
- ※7 池内了責任編集 2011 『KAWADE 道の手帖 寺田寅彦』河出書房新社
小山 慶太 2012 『寺田寅彦』中公新書
堀切 直人 2012 『寺田寅彦語録』論創社
松本 哉 2002 『寺田寅彦は忘れた頃にやってくる』集英社新書

博物館資料の中の “はかる”

“はかる”という言葉には、様々な意味があります。漢字で表してみても、“計る”“測る”“図る”“量る”などのよく使われる漢字の外に、“謀る”という漢字も使われます。私達は、暮らしの中で色々な“はかる”をおこないながら生活しています。

ここでは、文京ふるさと歴史館に収蔵された資料から、生活の中のさまざまな“はかる”について、少しご紹介したいと思います。

生活の中の“はかる”

【資料1】は、昭和12年(1937)に東京婦人愛市協会が考案し東京市が発行した、『家庭計量七曜表』という資料です。「正しき計量伸びゆく日本」というスローガンの下で、家計を助ける様々な“はかる”が紹介されています。この資料が、“はかる”を正しくおこなうことで、日々の生活の一助となるべく作成されたことが解ります。

ひを致しませう」とあります。例えば豚肉を買うときに、200円分の豚肉を買うのが銭本位の買い方(金高買)、200グラム分の豚肉を買うのが目方買いです。この資料では、目方買いをすることで、必要な量だけを買うことを薦めています。他の六項目でも、“はかる”を上手く活用することで、より良い生活が目指されています。

目方買いは、売る側からは“はかり売り”と呼ばれています。例えば酒屋でお酒を買う時には、現在は定量の容器に入った状態で売られていますが、以前は量や値段を指定して、その分だけを量って売る“はかり売り”が一般的でした。買う側では、通い徳利【資料2】のような容器を持参して、その中に購入したお酒を入れてもらいました。



【資料2】通い徳利

“はかる”の基準

○はか・る【計・量・測】

物の数量、または時間の度合いを一定の単位と比較して確かめる。秤、枡、ものさし、時計などの計器で測定する。
〔『日本国語大辞典』より〕

“はかる”には、一定の量を計測(計量)するという意味があります。そして一定の量を計測する為に、さまざまな基準(単位)が設定されています。

【資料3】は、容積を量るために使う、五合枡です。江戸時代の日本では、長さには「尺」、重さには「貫」、容積には「升」という単位を使っていました。現在の単位に



【資料3】五合枡

当てはめると、1尺は約30.3cm、1貫は約3.75kg、1升は約1.8lになります〔表1〕。江戸幕府は、口広4寸9分(約14.85cm)、深さ2寸7分(約8.18cm)の京枡(約1,803.87cm³)を、1升の基準としていました。また枡の製造は、枡座(東国33ヶ国は江戸枡座・樽屋、西国35ヶ国は京都枡座・福井家)に独占させることで、全国的な規格の統一をおこないました。5合は、1升の半分にあたるので、【資料3】は約901.9cm³の容量になります。

明治時代になると、近代的な度量衡制度の整備がおこなわれ、明治24年(1891)には度量衡法が公布されました。この度量衡法では、表記は尺貫法でおこないながらも、その基準はフランス式のメートル法で定められていました。【資料3】

【資料1】『家庭計量七曜表』

この資料では、①買い物は目方買いで、②ガス使用量を自分で計測、③電気使用量も自分で計測、④体温を測って健康管理、⑤味の加減やカロリーも計量から、⑥水の使用量も自分で計量、⑦日課表を作って計画的に生活と、七項目の生活に密着した“はかる”が例として上げられています。

一つ目の項目には、「従来の銭本位の買い方を改めて目方買

〔表1〕 様々な単位

	100/1	10/1	1	1/10	1/100	1/1,000	1/10,000	1/10,0000	
長さ	間	丈	尺	寸	分	厘			1尺 (30.3cm)
容積	石	斗	升	合	勺				1升 (1.803L)
重量	100貫	10貫	貫	100匁	10匁	匁	分	厘	1貫 (3.75kg)

の枘も、この制度下で製造された枘だと思われます。

現在の日本では、昭和27年に施行された計量法という法律によって、長さはメートル(m)、容積は立法メートル(ml)、重さはグラム(g)で、基準が定められています。この法律では、上に挙げたほかにも、時間、電流、温度、角度、面積、速さ、周波数、圧力、電圧、照度、放射能などなど、さまざまな物象の状態の量を計量の対象として定め、その基準が示されています。技術の進歩や“はかる”対象の多様化を受けて、新たな基準も次々と生まれています。

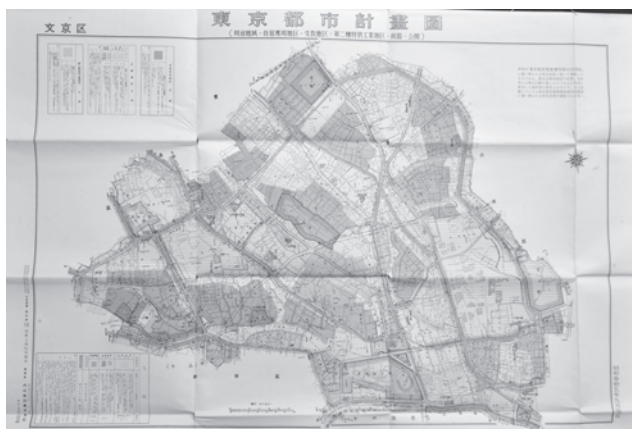
町づくりを“はかる”

○はか・る【図・諮・議】

相談する。協議する。自分の意見を人にただす。みずから考えたり推察したりする。

『家庭計量七曜表』の七つ目の項目にもあったように、計画を立てておこなう事も、日常におこなわれている“はかる”の一つです。また家庭内だけでなく、行政がおこなう様々な計画も、このような“はかる”に数えられます。

【資料4】は、昭和35年に刊行された『東京都市計画図 文京区』です。当時の文京区の地図上に、計画道路や特定区域などの都市計画の情報が記載されています。



【資料4】『東京都市計画図 文京区』

計画道路とは、東京の交通渋滞を緩和するために計画された幹線道路で、都心部から郊外へ向かう放射線、放射線を連絡する環状線などが計画されました。大正10年(1921)に計画された大東京新都市計画によるものが始まりとされていますが、関東大震災や空襲などの被害を受けて、復興計画道路も併せて計画されました。

【資料4】に記載された文京区の計画道路には、現在の白山通り(放射第9号線、昭和42年開通)のように、計画が実現した道路もありますが、江戸川橋から播磨坂、言問通りに抜ける道(環状3号線)のように、【資料4】から50年以上が経過した現在でも、まだ実現していない計画もあります。

登場人物が“はかる”

○はか・る【計・謀】

物事の状況を考えて処置する。欺く。だます。

最後になりましたが、“はかる”という言葉の中には、「欺く」、「だます」という意味もあります。「欺く」ことを示す資料はなかなかありませんが、文京区内が謀の舞台になった資料があります。

曲亭馬琴『南総里見八犬伝』では、区内大塚を模した場所が謀の舞台になっています。【資料5】は、八犬伝の第十九回「亀篠奸計糠介を騙す 番作遠謀孤児を託す」の挿絵(柳川重信画)です。亀篠は八犬伝の主役の一人犬塚信乃の叔母、番作は信乃の父親にあたります。大塚村の自宅で自殺を考えた信乃が、飼い犬の与四郎を切り殺したところ、八犬士の証である「孝」の玉が出てきたという場面です。タイトルにもあるように、大塚村名主の座を巡って、さまざまな策謀が渦巻いた上で起こった出来事として、描かれています。



【資料5】『南総里見八犬伝』第十九回挿絵

平成27年度の収蔵品展では、さまざまな“はかる”を紹介する展示を企画しています。博物館に収められた“はかる”を、是非ご覧ください(会期:平成28年2月13日~3月21日)。

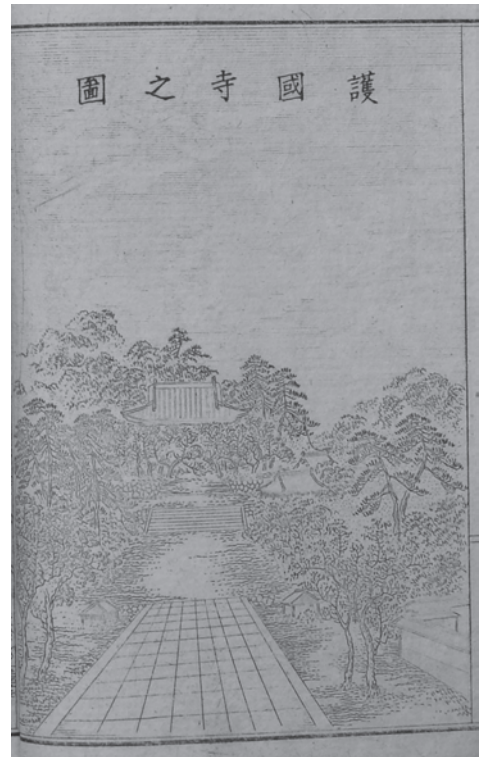
(加藤芳典)

明治の東京案内

一手のひらに乗る本

ふるさと歴史館で所蔵する資料には、様々な大きさの物があります。今回は、手のひらに乗る大きさの本についてご紹介します。『東京土産』と『画入東京名所案内』で、二点とも東京の名所について書かれたもので、明治16年(1883)に発行されました。

『東京土産』は、7月10日に発行で、大きさは縦11.9cm、横8.5cm、岸善四郎により編集されました。冒頭に、東京の優れた景色を遠方の人々に知らせるため、この本を作ったとあります。内容は、東京の名所の名所を絵と七・七・七・五の甚句形式で紹介しています。文京区域は、「小石川お茶の水」「関口の瀧」「根津権現」「湯島天神」「聖堂坂」が載っています。湯島天満宮の紹介には、「湯しまに天神 本郷に前田 梅に酔が有ら 当りまへ」とあり、湯島に飛び梅の伝説のある菅原道真(天神)を祀った湯島天満宮があり、本郷には梅鉢の家紋の加賀前田家があること、梅が酔っぱいことは当り前だとされています。「酔が有ら」と菅原は掛詞にもなっています。この本で紹介された62ヶ所の名所は、江戸時代以来の名所が中心ですが、「新橋ステンシヨ」や「銀座電気灯」など明治になって新しくできた名所も取り上げられています。



『画入東京名所案内』

『画入東京名所案内』は7月15日発行で、縦9.1cm、横6.5cm、乾坤の2冊からなり、安井乙熊の編集です。緒言には、東京は首都となってからは煉瓦や石を用いた建物が造られ、鉄道、電信、ガスも利用できるようになったため、江戸時代とは町の様子が変わったとあります。そのため、江戸時代の書物の内容は古くなったこと、東京を訪れる人にその様子を示すために、この本を作ったと書かれています。最初に、東京の地図と各区の町名一覧表が折り込まれています。本文は、東京の概略の後に、名所を区ごとに紹介していて、その一部は挿絵入りになっています。江戸時代からの名所の他に、「外務省」「陸軍省」など明治になってできた役所や、「第一国立銀行」「煉瓦通り」「瓦斯局」なども載っています。文京区域で紹介されているのは、小石川区では、「砲兵本廠」「植物園」「護国寺」、本郷区では「東京大学医学部」「湯島天神」などです。巻末には、区役所、警察署、郵便局、鉄道運賃、会社、公園、博物館、演芸場などが一覧表になり紹介されています。

同じ明治16年に発行された小さな本ですが、『東京土産』は、東京から遠い所に住んでいる人、『画入東京名所案内』は、東京を訪れる人を対象にしています。それぞれ、江戸時代の名所に明治の新しい名所を加え、当時の東京の様子を伝えています。(齊藤智美)



『東京土産』

平成26年度のあゆみ

小・中学生のための歴史教室

「この字、なんの字？ わがはい君鑑定団」

◆7月17日(木)～8月31日(日) 参加者数……223人

特別展

「ぶんきょうの樹木—いま・むかし—」

◆10月25日(土)～12月7日(日)(延べ38日間) 入館者数……2,570人

◆記念講演会 参加者数……100人

11月16日(日) 会場：文京区男女平等センター

「樹木医が語る—ぶんきょうの樹木—」／杉崎光明氏(樹木医)

◆展示解説 10月30日(木)、11月20日(木)



歴史教室



特別展

収蔵品展

「明治・大正の小石川を訪ねて—『新撰東京名所図会』展—」

◆2月14日(土)～3月22日(日)(延べ32日間) 入館者数……3,061人

◆展示解説 2月21日(土)、3月3日(火)、3月12日(木)



収蔵品展

文の京ゆかりの文化人顕彰事業

◆講演会(共催：ふるさと歴史館友の会) 参加者数……120人

9月26日(金) 会場：文京区男女平等センター

「佐藤春夫の文学—芥川龍之介との友情を中心に—」／

石割透氏(駒沢大学名誉教授)

◆朗読コンテスト 応募者数……268人、本選出場者数15人

10月5日(日)[本選] 会場：跡見学園女子大学 観覧者数……267人

◆史跡めぐり 参加者数……50人

12月11日(木) 「文化人の愛したまち目白台・関口を歩く」

◆歴史講座 参加者数……68人

1月25日(日) 会場：文京区男女平等センター

「佐藤春夫とスペイン趣味」／

山田俊幸氏(帝塚山学院大学教授)・高野麻衣氏(音楽ライター)



歴史講座

ミニ企画

◆3月26日(水)～6月22日(日) 「和菓子の掛紙—季節の彩り—」

◆6月25日(水)～9月23日(火・祝)

「昔の文字を読んでみよう!～習字のお手本～」

◆9月25日(木)～12月23日(火・祝) 「天高く～文京と馬～」

◆1月 6日(火)～3月22日(日)

「新春に寄せて—没後50年 名優・花柳章太郎—」



ミニ企画

史跡めぐり

◆第1回 6月10日(火) 「区境を歩く—湯島から根津へ—」

参加者数……35人

◆第2回 11月11日(火) 「ぶんきょうの樹木を訪ねる」参加者数……39人

◆第3回 3月14日(土) 「早春の駒込・千駄木 小さな旅」

参加者数……55人



史跡めぐり

平成27年度の催し

※それぞれの事業の開催日時や募集方法等は、「区報ぶんきょう」およびホームページにて、お知らせします。

小・中学生のための歴史教室

わがはい君捜索隊 絵の中からさがしてみよう!

7月18日(土)～8月30日(日)

常設展示室に展示された絵などを中心にクイズを出題します。

※事前申込不要、当日受付へ(最終受付は午後4時30分まで)

特別展

復興への想いー生きよー(仮)

10月31日(土)～12月13日(日) ※11月3日(文化の日)は無料公開日

「復興」をテーマに関東大震災、第二次世界大戦に関わる館蔵資料と文京ゆかりの人々をとりあげます。

史跡めぐり

歴史館友の会まち案内ボランティアが、区内の史跡等をご案内します。年3回(6月、11月、3月)実施予定。要申込(往復はがきにて)。

参加費 保険40円・入館料等実費。

収蔵品展

はかる(仮)

2月13日(土)～3月21日(月・祝)

暮らしの中で身近にある“はかる”について展示します。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 朗読コンテスト

本選 10月18日(日) 会場 跡見学園女子大学プロッサムホール
樋口一葉と森鷗外の作品を朗読。コンテスト形式で優秀者を選び表彰します。
※コンテスト参加・観覧の募集方法は、ホームページなどでお知らせします。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 歴史講座

文京ゆかりの文化人についての講演会を開催します。実施日未定、参加費200円を予定。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 史跡めぐり

実施日未定。要申込(往復はがきにて)。

参加費 保険40円・入館料等実費。

レファレンス(地域学習サポートコーナー)

毎月第2・4木曜日の13時30分から16時30分まで、館内1階レファレンスコーナーにて、文京の歴史や文化に関するご質問などにお答えします。

常設展示ボランティアガイド

毎週土曜日、13時から17時まで常設展示の解説を行います(申込不要・無料)。

上記日時以外のご希望も受け付けています。2週間前までに、文京ふるさと歴史館へ電話連絡し、申請書を提出してください。

利用の案内

◆開館時間: 午前10時から午後5時まで

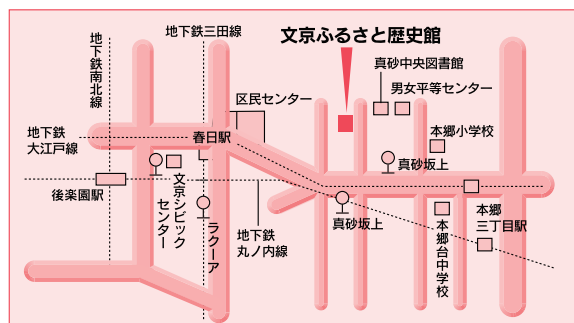
◆休館日: 月曜日・第4火曜日(休日にあたるときは翌日)
くんじょう期間、年末年始

◆入館料: 一般個人100円、団体(20人以上)70円
中学生以下・65歳以上・友の会会員は無料
障害者手帳等提示で本人と介護者1名無料
*特別展は別に定めます

◆交通: 東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線「本郷三丁目」から徒歩5分
都営三田線・大江戸線「春日」から徒歩5分
都営バス 都02 上69「真砂坂上」から徒歩1分
文京区コミュニティバスB-ぐる「文京シビックセンター」または「ラクーア」から徒歩10分

◆ホームページ: <http://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/>

〒113-0033 東京都文京区本郷四丁目9番29号 電話(03)3818-7221



文京ふるさと歴史館